

平成21年8月期 第3四半期決算短信

平成21年7月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アイケイコーポレーション

コード番号 3377 URL <http://www.ikco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 加藤義博

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総合管理本部管掌

(氏名) 山縣 俊

TEL 03-6803-8855

四半期報告書提出予定日 平成21年7月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年8月期第3四半期の連結業績(平成20年9月1日～平成21年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年8月期第3四半期	17,028	—	338	—	378	—	142	—
20年8月期第3四半期	17,733	22.3	1,190	9.1	1,222	9.3	334	△34.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年8月期第3四半期	929.37	—
20年8月期第3四半期	2,195.46	2,184.25

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年8月期第3四半期	6,259	4,619	72.6	29,748.24
20年8月期	6,364	4,626	71.6	29,823.84

(参考) 自己資本 21年8月期第3四半期 4,547百万円 20年8月期 4,558百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年8月期	—	400.00	—	400.00	800.00
21年8月期	—	600.00	—		
21年8月期(予想)				600.00	1,200.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年8月期の連結業績予想(平成20年9月1日～平成21年8月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,158	△1.8	1,198	△35.7	1,243	△34.7	628	△25.9	4,108.48

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年8月期第3四半期	152,856株	20年8月期	152,856株
② 期末自己株式数	21年8月期第3四半期	—株	20年8月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年8月期第3四半期	152,856株	20年8月期第3四半期	152,573株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した国際的金融市場の混乱に加え、日本株式市場の大幅下落、急激な円高による輸出企業の収益の減少にともなう雇用情勢の悪化等から、企業の設備投資や個人消費が減少し、景気の低迷が続く厳しい状況となりました。

当社グループが属するオートバイ業界におきましては、国内におけるオートバイ保有台数が1,278万台（平成20年3月末現在、出所：社団法人日本自動車工業会）といわれており全体として微減する傾向にあります。しかし、比較的市場価値の高い軽二輪・自動二輪といった大型オートバイの保有台数には増加傾向がみられます。一方で、当第3四半期連結累計期間においては、当社グループの主たる販売先（出品先）である中古オートバイオークション市場において、平成20年10月以降、世界的な不況・円高等の影響によってオークションに参加する輸出業者の買い控えが発生し、著しい相場下落が見られました。しかし、平成21年1月以降については、落ち着きを取り戻しつつあります。

このような状況のもとで、当社グループは、「バイク王」をコアブランドとする中古オートバイ買取販売において、従来からの積極的な広告展開や多店舗展開による認知度・信用力の向上に加え、広告宣伝施策の改善に効果が認められ、販売台数が増加いたしました。しかし、上記のオークション相場下落にともない、平均売上単価（一台あたりの売上高）ならびに平均粗利額（一台あたりの粗利額）が低下いたしました。

その結果、売上高17,028,657千円（前年同期比4.0%減）、営業利益338,258千円（同71.6%減）、経常利益378,925千円（同69.0%減）、四半期純利益142,059千円（同57.6%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

(1) 中古オートバイ買取販売事業

中古オートバイ買取販売に関しては、上記のとおり、販売台数は増加いたしました。しかし、オークション相場下落にともない、平均売上単価ならびに平均粗利額は低下いたしました。このような状況のもとで、当社グループは平均粗利額を確保する施策として、オークション相場下落に対応した買取価格の見直しを図りました。上記施策は、第2四半期連結累計期間の後半になって、ようやく効果の兆しが見えてまいりましたが、結果として、買取成約率（※）の下落を招きました。

また当初の計画どおり、商圈の重複する店舗、立地として最適といえない店舗等の見直しを図り、店舗あたりの取扱台数の増加を目的とした店舗展開の効率化を鑑みながら、8店舗を新規出店するとともに、6店舗を閉鎖いたしました。加えて、増加するお申し込み件数への対応および災害等のリスクに備え、第二インフォメーションセンターを開設いたしました。

オートバイ小売販売に関しては、新ブランド「バイク王ダイレクトSHOP」を中心に、積極的な販売活動、小売販売店のブランディング強化および将来的な多店舗展開を視野に入れた基礎構築を進めてまいりました。なお、「バイク王」のブランド力・スケールメリットを活かし、買取販売とのシナジー効果の追求を目的に、小売販売店「テクノスポーツ」の看板を「バイク王ダイレクトSHOP」へ切り替え、小売販売ブランドの統合を進めております。

以上の結果、直営店舗数は104店舗（買取販売店：93店舗、小売販売店：10店舗、パーツ販売店：1店舗）となり、売上高は16,760,060千円（前年同期比4.7%減）、営業利益は369,694千円（同70.7%減）となりました。

(2) オートバイ駐車場事業

子会社「株式会社パーク王」にて展開するオートバイ駐車場事業において、事業地の確保・拡大戦略から収益性の向上を中心に置いた事業展開に努めてまいりました。その結果、532車室（時間貸435車室・月極97車室）を新規に開設するとともに、不採算のため110車室（時間貸59車室・月極51車室）を閉鎖しており、車室数は1,573車室（時間貸1,040車室・月極533車室）となりました。

以上の結果、売上高は268,866千円（前年同期比92.0%増）、営業損失は33,717千円（前年同期は70,918千円の営業損失）となりました。

なお、前年同期比につきましては参考として記載しております。

※買取成約率：出張査定時においてオートバイの査定金額をオートバイユーザーに提示した際に取引成約に至る割合。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて35,407千円減少し、4,638,938千円となりました。これは主に、売掛金の増加59,371千円、関係会社等への貸付金の増加46,891千円、貯蔵品の増加20,205千円、商品の増加16,500千円があったものの、現金及び預金の減少216,373千円があったためであります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末に比べて68,855千円減少し、1,621,026千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得167,121千円、無形固定資産の取得35,030千円があったものの、減価償却費の計上240,623千円があったためであります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて70,335千円減少し、1,602,401千円となりました。これは主に、未払金の増加104,589千円、賞与引当金の増加82,683千円があったものの、未払法人税等の減少295,792千円があったためであります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末に比べて27,481千円減少し、37,872千円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて6,446千円減少し、4,619,690千円となりました。これは主に、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益142,059千円を計上しておりますが、配当金の支払152,856千円による利益剰余金の減少があったためであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローにおいて214,591千円増加、投資活動によるキャッシュ・フローにおいて263,453千円、財務活動によるキャッシュ・フローにおいて167,510千円それぞれ減少したことから3,393,228千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は214,591千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益を358,748千円計上したことに加え、非資金費用である減価償却費240,623千円、賞与引当金繰入額82,683千円を計上したことにより資金が増加したものの、売上債権が59,371千円、たな卸資産が36,706千円それぞれ増加したことに加え、前連結会計年度の法人税等の確定納付および当連結会計年度に係る中間納付等が488,566千円あったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は263,453千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出152,702千円、無形固定資産の取得による支出35,030千円および関係会社貸付けによる支出55,000千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において、財務活動の結果使用した資金は167,510千円となりました。これは主に、短期借入により18,000千円の資金を調達したものの、配当金の支払150,131千円および長期借入金の返済による支出24,000千円があったことによります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年8月期の業績予想につきましては、平成20年10月15日の通期決算発表時に発表しました業績予想を平成21年4月3日付で修正しております。詳しくは「業績予想の修正に関するお知らせ」(平成21年4月3日付)をご参照下さい。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末のたな卸資産の簿価切下げに関して、収益性が低下していることが明らかなたな卸資産についてのみ正味売却価額を見積り、簿価の切下げを行っております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別法による原価法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

なお、この変更に伴う損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,393,228	3,609,602
売掛金	162,568	103,197
商品	621,883	605,383
貯蔵品	22,073	1,867
その他	439,481	354,368
貸倒引当金	△297	△73
流動資産合計	4,638,938	4,674,345
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	639,013	628,968
その他(純額)	213,779	234,432
有形固定資産合計	852,792	863,401
無形固定資産		
投資その他の資産	157,644	196,899
その他	623,329	634,580
貸倒引当金	△12,740	△5,000
投資その他の資産合計	610,588	629,580
固定資産合計	1,621,026	1,689,881
資産合計	6,259,964	6,364,227

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	112,456	100,380
短期借入金	238,000	220,000
未払金	598,092	493,503
未払法人税等	176,535	472,327
賞与引当金	82,683	—
その他	394,635	386,525
流動負債合計	1,602,401	1,672,737
固定負債	37,872	65,353
負債合計	1,640,274	1,738,091
純資産の部		
株主資本		
資本金	585,650	585,650
資本剰余金	605,272	605,272
利益剰余金	3,357,032	3,367,829
株主資本合計	4,547,955	4,558,752
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△758	—
評価・換算差額等合計	△758	—
新株予約権	72,492	67,383
純資産合計	4,619,690	4,626,136
負債純資産合計	6,259,964	6,364,227

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年5月31日)
売上高	17,028,657
売上原価	7,818,303
売上総利益	9,210,354
販売費及び一般管理費	8,872,095
営業利益	338,258
営業外収益	
受取利息	2,537
助成金収入	11,264
クレジット手数料収入	21,380
その他	23,141
営業外収益合計	58,323
営業外費用	
支払利息	2,887
為替差損	1,575
貸倒引当金繰入額	7,740
持分法による投資損失	4,415
その他	1,038
営業外費用合計	17,656
経常利益	378,925
特別利益	
固定資産売却益	197
貸倒引当金戻入額	69
新株予約権戻入益	857
特別利益合計	1,124
特別損失	
固定資産除却損	16,027
減損損失	5,274
特別損失合計	21,302
税金等調整前四半期純利益	358,748
法人税、住民税及び事業税	200,965
法人税等調整額	15,723
法人税等合計	216,689
四半期純利益	142,059

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年9月1日
至 平成21年5月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	358,748
減価償却費	240,623
貸倒引当金の増減額(△は減少)	7,965
賞与引当金の増減額(△は減少)	82,683
受取利息及び受取配当金	△2,537
支払利息	2,887
固定資産売却損益(△は益)	△197
固定資産除却損	16,027
減損損失	5,274
為替差損益(△は益)	1,575
持分法による投資損益(△は益)	4,415
売上債権の増減額(△は増加)	△59,371
たな卸資産の増減額(△は増加)	△36,706
仕入債務の増減額(△は減少)	12,075
その他	70,044
小計	703,506
利息及び配当金の受取額	2,334
利息の支払額	△2,684
法人税等の支払額	△488,566
営業活動によるキャッシュ・フロー	214,591
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△152,702
有形固定資産の売却による収入	340
無形固定資産の取得による支出	△35,030
関係会社貸付金の回収による収入	8,108
関係会社貸付けによる支出	△55,000
その他	△29,169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△263,453
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	18,000
長期借入金の返済による支出	△24,000
配当金の支払額	△150,131
その他	△11,379
財務活動によるキャッシュ・フロー	△167,510
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△216,373
現金及び現金同等物の期首残高	3,609,602
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,393,228

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年9月1日至平成21年5月31日)

	中古オートバイ 買取販売事業 (千円)	オートバイ 駐車場事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	16,760,060	268,596	17,028,657	—	17,028,657
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	270	270	△270	—
計	16,760,060	268,866	17,028,927	△270	17,028,657
営業利益(△は損失)	369,694	△33,717	335,977	2,281	338,258

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、当社グループの事業内容を勘案して区分しております。

2. 各事業区分の主な内容

- (1) 中古オートバイ買取販売事業：中古オートバイ買取販売、オートバイ小売販売、パーツ販売
(2) オートバイ駐車場事業：駐車場装置・駐車設備機器の開発・製造・販売、駐車場の管理等

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年9月1日至平成21年5月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年9月1日至平成21年5月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前年第3四半期連結累計期間(平成19年9月1日 至 平成20年5月31日)

区分	前第3四半期 (平成20年8月期 第3四半期)	
	金額(千円)	百分比 (%)
I 売上高	17,733,926	100.0
II 売上原価	8,473,294	47.8
売上総利益	9,260,631	52.2
III 販売費及び一般管理費	8,070,043	45.5
営業利益	1,190,587	6.7
IV 営業外収益	43,183	0.3
V 営業外費用	11,501	0.1
経常利益	1,222,270	6.9
VI 特別利益	530	0.0
VII 特別損失	338,819	1.9
税金等調整前四半期純利益	883,981	5.0
税金費用	549,013	3.1
四半期純利益	334,967	1.9

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前年第3四半期連結累計期間(自平成19年9月1日至平成20年5月31日)

	前第3四半期 (平成20年8月期 第3四半期)
区分	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	883,981
減価償却費	250,494
賞与引当金の増減額(減少:△)	64,687
減損損失	290,227
売上債権の増減額(増加:△)	△74,916
たな卸資産の増減額(増加:△)	61,396
仕入債務の増減額(減少:△)	15,134
未払金の増減額(減少:△)	137,478
その他	143,722
小計	1,772,206
法人税等の支払額	△943,458
その他	△33
営業活動によるキャッシュ・フロー	828,715
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△237,892
有形固定資産の売却による収入	919
無形固定資産の取得による支出	△215
敷金・保証金の差入による支出	△79,363
敷金・保証金の返還による収入	23,308
その他	△1,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△294,493
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(減少:△)	120,000
長期借入金の返済による支出	△16,000
割賦未払金の支払による支出	△12,394
新株発行による収入	792
配当金の支払額	△104,130
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,733
IV 現金及び現金同等物の増減額 (減少:△)	522,488
V 現金及び現金同等物の期首残高	2,646,758
VI 現金及び現金同等物の四半期末残高	3,169,247

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前年第3四半期連結累計期間(自平成19年9月1日至平成20年5月31日)

	中古オートバイ 買取販売事業 (千円)	オートバイ 駐車場事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	17,594,125	139,800	17,733,926	—	17,733,926
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	270	270	△270	—
計	17,594,125	140,070	17,734,196	△270	17,733,926
営業費用	16,332,702	210,989	16,543,691	△352	16,543,338
営業利益(△:損失)	1,261,423	△70,918	1,190,505	82	1,190,587

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、当社グループの事業内容を勘案して区分しております。

2. 各事業区分の主な内容

(1) 中古オートバイ買取販売事業: 中古オートバイ買取販売、オートバイ小売販売、パーツ販売

(2) オートバイ駐車場事業: 駐車場装置・駐車設備機器の開発・製造・販売、駐車場の管理等

[所在地別セグメント情報]

前年第3四半期連結累計期間(自平成19年9月1日至平成20年5月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前年第3四半期連結累計期間(自平成19年9月1日至平成20年5月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しています。